



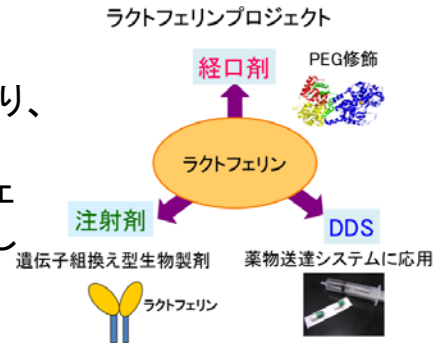
大学発の医薬品開発を目指して

研究内容

遺伝子組換え、生化学、細胞培養などの技術を工学的に駆使して、タンパク質やペプチドに特化した創薬研究を行っています。

研究例1:ラクトフェリンプロジェクト

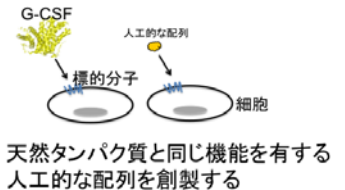
ミルクに含まれるラクトフェリンは様々な生理活性を有しており、創薬の観点から非常に興味深いものです。当研究室では、PEG修飾法や遺伝子組換え法を用いて、より安定なラクトフェリンの開発に成功しました。またラクトフェリンの性質に着目した薬物送達システムの開発も行っています。



研究例2:機能ペプチドの創製

遺伝子組換え技術により人工のランダムアミノ酸配列を作り、その配列から機能のある配列を選び出す研究を進めています。これにより、新しい医薬品の候補を作る事が可能です。

進化学を用いた機能性ペプチドの創製



研究室について

教授:佐藤 淳(atsato@stf.teu.ac.jp)、大学院生:3名、学部4年生:13名(女性4名、13名中10名が大学院進学希望)。毎週金曜日に専門雑誌に発表された論文の紹介と、各研究チームの進捗報告会を実施。

高校生へのメッセージ



生物創薬研究室の佐藤です。私は工学部出身で、東京工科大学に赴任する前は、企業の研究所で医療、医薬の研究に携わってきました。私の研究室では、バイオベンチャー企業と共同で「大学発の医薬品開発」に情熱を燃やしています。

工学的な発想で「創薬研究」を進めている大学の研究室は、意外と少ないのです。薬作りに興味のある高校生諸君！！皆さんの若いユニークな発想を、創薬研究に活かしてみませんか？研究室でお待ちしています。